阪大病院 NEWS
No. 97 号
OSAKA UNIVERSITY HOSPITAL
2025（令和7）年1月25日発行
発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会（総務課）
住所／〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15
TEL ／ 06-6879-5111（代表）
ＱＲコードから本院ホームページをご覧いただけます
https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp
禁転載（この紙面は再生紙を使っています）

機能強化でニーズに応える 統合診療棟

2025年5月7日に開院を予定している統合診療棟には、現在よりも機能を強化した様々な部門が整備されます。その中でも、特徴的な施設となる「アイセンター」と「総合周産期母子医療センター」について紹介します。

光 がつなぐ世界一のアイセンター

本院の眼科が、新しく「アイセンター」として生まれ変わります。これまで別々に運営されていた眼科の外来、入院、手術室が統合診療棟の6階に一つになり、より便利に効率的にご利用いただけるようになります。

入院や外来、手術などのすべての眼科診療が一つのフロアで行われるため、眼科医療に集中し、診療の質が大幅に向上します。この病棟・外来・手術室が完全に一体化するのは海外の先進的な施設では一般的ですが、日本の大学病院では初めての試みです。一体化により診療効率が上がり、より多くの症例を扱うことで、地域の皆さまにより良い眼科医療を提供し地域社会へ貢献します。

アイセンターは、統合診療棟の6階ほぼ全体をしめる総床面積約3500平方メートルにわたる広大な施設です。外来診療部門、専用の手術室5室（レーザー室含む）、50床の病棟、情報管理室やカンファレンス室などが含まれる、多機能の眼科専用施設です。また、最新の手術機器や診断機器を多数導入し、多くの患者さんに最高水準の医療を提供します。さらに、アプリを使った患者呼び出し機能やモニターでの表示を開始し、患者さんの待ち時間短縮に積極的に取り組みます。

写真㊤スタッフステーション㊨㊦手術室㊧㊦エントランス※いずれもイメージ図

導線にも工夫

デザインコンセプトは「光がつなぐ世界一のアイセンター」です。患者さんがスムーズに診療を受けられるよう、光を使ったわかりやすい導線を設計しました。それ以外にも失明の危機に瀕した患者さんに「光」を届けて視力を取り戻したいという願いもあります。また、この「つなぐ」という考え方には、医療スタッフ同士の連携や、患者さんと医療者が一緒になって治療に取り組むという意味も込められています。

効率だけを追求するのではなく、真に高度な眼科医療、教育、研究を実現する専門施設として開院に向けて準備を進めています。皆さまにとって、より安心で質の高い眼科医療を提供できるよう努めてまいりますので、どうぞご期待ください。

家 族中心ケアの総合周産期母子医療センター

大阪府から指定を受けた「総合周産期母子医療センター」として、母体胎児集中治療室（MFICU）を含む産科病棟及び新生児集中治療室（NICU）を備え、常時母体・新生児搬送受入体制を有し、母体の救命救急への対応、ハイリスク妊娠に対する医療、高度な新生児医療等を担っています。移転後は、一般病床22床、MFICU6床、NICU12床、新生児回復室（GCU）12床に拡大します。とくに一般病床は個室を10床に増やし、NICUでも個室空間を配備することで、ご家族でなるべく快適に過ごしていただけるような「family centered care」に取り組みます。

写真㊤エントランス㊨㊦LDR室（陣痛・分娩・回復室）㊧㊦NICU※いずれもイメージ図

安心で快適な分娩

現在、出生数は激減し、今後ますます分娩施設は減少・集約化されるという大きな変革の時期を迎えています。これまでの日本における小規模散在型の分娩施設ではなく、なるべく多くの分娩を取り扱うことは妊婦さんや赤ちゃんのみならず医療者にとっても皆が安心できる周産期医療につながります。お母さんや生まれてきた赤ちゃんに急に検査や治療が必要となった場合でも、高度な専門医療チームが対応できる体制となっています。一方で、リスクが大きくない分娩では助産師ならではの視点を活かした助産師主導の分娩「院内助産」も進めています。基礎疾患の有無によらず、すべての妊婦さん一人一人に寄り添った、より安心で快適な分娩を目指した環境を提供していきます。

また、今後は様々な妊婦さんのニーズにこたえるべく分娩のみ本院で行い、妊婦健診や産後ケアは近隣の医療機関で診ていただく「セミオープンシステム」も拡充していきます。無痛分娩も、一部制限付きですが行っています。麻酔科医、産科医、助産師が協力し、安全かつ効果的に分娩の痛みを和らげることが可能です。出生前診断や胎児疾患の早期診断を目的とした胎児超音波スクリーニング検査も積極的に行っております。胎児疾患と診断された場合は、胎児診断治療センターや小児の専門診療グループと連携し、丁寧なカウンセリングを行った上で最先端の専門的治療につないでいます。

産科医・小児科医のみならず多様な専門診療科医師、助産師、看護師、臨床検査技師や臨床心理士などの多職種が一丸となり、母子の健康を守りその健やかな未来を支えていくために全力で取り組んでいきます。

マスク着用のお願い

私たちの隣にとても感染症に弱い方がおられますマスクの着用をお願いいたします

この病院には、病気や治療により免疫力が落ちた方がたくさんおられます。待合室でのあなたの隣の、向かいの患者さんがそうかもしれません。少しでも正しいマスク着用によりウイルス拡散の可能性を下げてくださいますようお願いいたします。

大阪大学「ワニ博士」

病院再開発基金へのご寄附のお願い

本院は、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、令和7年春の運用開始を目指し病院再開発事業を行っています。本事業には大学病院でしかできない臨床医学研究・開発など将来の医療に必要な部門の整備も含まれています。

診療機能・未来への医学の研究開発機能のさらなる充実を図るため、今般、「大阪大学医学部附属病院再開発基金」を、大阪大学未来基金に立ち上げました。再開発のコンセプトは、“Futurability待ち遠しくなる未来へ。”です。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

▼詳しくはこちらをご覧ください

大阪大学未来基金

再開発整備事業特設ホームページを公開しました

再開発整備事業に関する情報を広くお知らせするために、特設ホームページを作成し、公開いたしました。

病院長メッセージをはじめ、再開発のコンセプトや新棟の完成予想図などが掲載されており、様々な情報をご覧いただくことができます。今後は、工事の進捗状況や関連するニュースを定期的に更新していく予定です。

本ホームページを通じて、再開発整備事業に関する情報の提供を円滑化し、関係者や地域住民の皆様への情報発信をより効果的に行ってまいります。

▼詳しくはこちらをご覧ください

新 診療科長等ごあいさつ

吉田（よしだ） 健史（たけし）

●麻酔科長

このたび麻酔科長を拝命いたしました。本院は、臓器移植をはじめとする侵襲の大きな手術を実施し、高度先進医療を提供する地域の中核病院として地域の要請に応える使命を有しております。現在、年間の麻酔科管理症例は7000例を優に超えますが、地域の要請・全身麻酔需要の増加に伴い、患者さんの安全を最優先にしながら、さらに拡大を進めてまいります。また、高度先進医療を担う熱意溢れる人材の育成に全力を注ぎ、これまで以上に病院発展のために貢献していく所存でございますので、各診療科の温かいサポートをよろしくお願い申し上げます。

（令和6年12月1日就任）

●集中治療科長・集中治療部長

このたび集中治療科長・集中治療部長を拝命いたしました。集中治療を専門とする麻酔科医として長年、院内重症患者さんの集中治療を担当させていただいておりました。次年度、統合診療棟運用開始に伴い29床のICUが旧棟と新棟の二つに分かれ、重症患者さんの集中治療管理を継続しますので、これまで以上に各診療科との連携が重要になってまいります。患者さんの安全を最優先に、病院機能維持・発展のために全力を尽くす所存でございますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

（令和6年12月1日就任）

高齢者を全人的に評価して幅広く診療

認知症早期発見・治療に努め新薬も活用

老年・高血圧内科

めまいや腰痛、ふらつきなどの老年症候群や、高血圧をはじめとする血圧異常を中心に診療しています。原因の分からない症状で他院や他科から紹介される患者さんもいます。特定の臓器に限らず、高齢者を全人的に評価しながら診療する「何でも診る科」であることが特徴です。

認知症や、加齢に伴って身体的、精神的機能が低下する「フレイル」などに起因する老年症候群にはさまざまな症状があります。中でも認知症の患者さんは増加傾向にあり、「もの忘れ外来」で1週間の検査入院をされた方は21年度の73人から年々増え、24年度は120人を超える見通しです。

認知症は早期の治療介入で予後が大きく変わります。認知症の手前の軽度認知障害（MCI）の段階であれば、適切な介入により改善することがあると言われています。当科は早期診断・早期治療をモットーに、画像や髄液検査などで診断し、危険因子となる生活習慣病対策なども行います。認知症の原因となるアルツハイマー病に対しては近年、原因物質の一つであるアミロイドβを除去する疾患修飾薬が出てきました。高額で定期的な点滴が必要など負担もありますが、治療の選択肢として、患者さんやご家族と相談しながら、積極的に活用しています。

ただし、新薬の対象はMCI～軽度認知症の方で、全患者の1割程度です。他の多くの方たちにも、従来の症状改善薬などで治療を進めつつ、ご家族を含めて幸せな生活を送ってもらえるようなケアがとても大事です。それにはご家族の協力や地域の支援、地域でケアに当たるかかりつけ医の協力が欠かせません。

高血圧診療は二次性高血圧の診断、難治性高血圧の治療など高血圧だけではなく、意識消失を主訴とする低血圧や閉塞睡眠時無呼吸の診療など血圧に関連する病態や症候に対して広く対応しています。

高齢者の認知・身体機能や生活の背景などを包括的に調べて全人的に評価する方法として、高齢者総合機能評価（CGA）があります。本院は既に活用していますが、より分かりやすい方法に、米国で普及している「5Ms（ファイブエムズ）」があります。5つのMは認知機能・精神状態、身体機能、薬剤、多様な疾患、患者が最も望むこと、を指す英語の頭文字です。5Msの利点は患者さん中心の医療を進める上で、他の診療科や多職種、他の医療機関、更に介護施設との情報伝達が容易になることにあります。日本老年医学会や本院が中心となって全国へ広める活動を開始しています。

集学的な睡眠医療の充実図る

多数の診療科が関与し連携

睡眠医療センター

本院の睡眠医療センターは神経科・精神科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科、循環器内科、老年・高血圧内科などの医師が一体となって、各々の専門性を生かした睡眠診療を行っています。

日本人の約5人に1人は睡眠に関する悩みを抱えているといわれており、睡眠の問題は日常生活に支障を来すなど生活の質を著しく損なうだけでなく、精神疾患や生活習慣病のリスクになるなど心身両面にわたり多くの悪影響を与えます。近年では認知症発症のリスクが増大することも指摘されています。一方、睡眠の病気（睡眠関連疾患）にはどのようなものがあるのか、イメージがつきにくい方も多いのではないでしょうか。睡眠関連疾患には、代表的なものとして不眠症や睡眠時無呼吸症候群があり、他にもナルコレプシーという過眠症や睡眠中に大声を上げたり異常行動が生じるレム睡眠行動異常症、睡眠リズムが乱れる概日リズム障害、主に四肢の不快感により寝つきが妨げられるレストレス・レッグズ症候群などがあります。

当センターには睡眠関連疾患が疑われる患者さんの睡眠を詳しく評価するための検査設備（終夜睡眠ポリグラフ検査：PSG）と睡眠検査技師が配置されており、必要な検査体制を確保しています。ポリグラフとは「複数のセンサーを用いて同時に計測する装置」のことで、PSGは脳波や筋電図・呼吸センサーなどを用いて睡眠中の生理学的データを終夜にわたって記録することができます。様々な睡眠関連疾患に専門的に対応できる医療機関は日本の中でも限られているのが現状です。当センターでは問診や他の検査結果も参考にしながら必要に応じてPSGを行い、正確な診断と治療につなげています。睡眠医療の対象は子どもからご高齢の方まで幅広い年代にわたり、様々な病態に対応するため多数の診療科の関与と連携が求められます。睡眠の問題を抱える多くの患者さんのニーズに応えるべく、今後も各科が連携して集学的な睡眠医療のさらなる充実を図っていきたいと考えています。

多田事務部長おすすめ御膳

メニュー（一例）

白身魚のポワレ　マリネ　さつまいものポタージュ　バターライス　ブランマンジェ

昨年の夏にフランス・パリで開催されたオリンピック・パラリンピックでは、世界各国の選手が活躍し、大いに盛り上がりました。11月26日に実施したおすすめ御膳は、「開催地フランスにちなんだメニューでもう一度楽しんでいただきたい」という多田典史事務部長の想いをこめてお届けしました。国旗をイメージしたランチョンマットと一緒に、バジルソースを添えた白身魚のポワレやバターライスなどの料理をご用意し、患者さんから「豪華ですごかった」「オリンピックの感動を思い出しました、ありがとう」と沢山の嬉しいご感想をいただきました。

ホスピタルミニ・ニュース

PHOTO TOPICS

12/24

クリスマスコンサート＆サンタ回診

10/20

病院見学会

ゴールドセプテンバー

光のエールと応援メッセージが子どもたちに送られました（Global Gold September Campaign）

12/4

第30回 阪大病院がんサロンを開催しました

2024年12月20日に管理栄養士による「がん治療中の食事と栄養」についての講演会を開催しました。今回はご家族の参加も多く、関心の高さをあらためて感じました。2月は「治療中に頑張る血管のはなし」がテーマの講演会を予定しています。

防災訓練

令和6年度の防災訓練を11月9日に、上町断層帯による地震が発生した想定で実施しました。また同日に近畿2府4県合同で実施される近畿地方DMATブロック訓練が大阪府主催で行われることにより、本院に豊能・三島医療圏のDMAT活動拠点本部が設置され、京都府医療圏のDMAT隊等関係機関も参加しての訓練も行われ、本院の災害対策本部とも連携を図り実践さながらの訓練となりました。

臨床工学技士のお仕事を体験しよう!!

2024年11月9日午後の部（中高生）の集合写真

千里キャリアデザインのイベント　実施報告

2023年に続き、24年11月9日に「臨床工学技士のお仕事を体験しよう!!」を本院の血液浄化部で開催しました。小学生12名と保護者11名、中高生15名の合計38名のご参加をいただき、手術部や集中治療部で使用される補助循環装置（ECMO）や人工呼吸器などの高度な医療機器に実際に触れていただきました。参加者からは「どれも興味深く、楽しい体験だった」、「全く関心がなかった医療への道も、少し気になるようになった」といった多くの感想をいただきました。